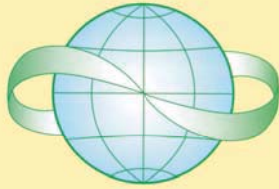


地域のリサイクル情報誌

『ヴェーナス通信』



商標登録第 4882482 号

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第 81 号

(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
 東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
 TEL : 042 - 395 - 9788
 FAX : 042 - 395 - 9787



謹賀新年

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、ひとかたならぬご高配に預かりまして誠にありがとうございました。

皆様のご繁栄を心からお祈り申し上げますと共に本年も倍旧のお引き立ての程、宜しくお願い致します。

代表理事 吉浦 高志

令和三年を振り返ると、年の 4 分の 3 程が緊急事態宣言下であり、私たちの生活スタイルも一変し、それに伴ってごみ・資源の発生状況も変化を致しました。特にベッドタウンであるこの北多摩地域は、都心からの転入世帯の増加による戸別回収地点の増加、リモートワークによる家庭からの発生増、家飲みによるびん・缶の増加が顕著になりました。古紙類では、通信販売の利用増加などにより段ボールの発生が増えた他、リモートワークによるシュレッダー古紙の発生が増えたことで、通常の雑誌・雑がみとは別に収集が必要なため、回収現場ではなかなか苦労しております。

市民生活に欠かせない業務として、回収を止めることは出来ないため、作業員には感染症予防対策を徹底させ作業を行っていましたが、幸いにして組合員各社でのコロナ感染、クラスターの報告はなく、無事に本年を迎えられたこ



とは、本当に良かったと思います。引き続き、注意喚起をしながら作業を行ってまいります。

また、昨年は大変な中でも明るい話題もありました。上部団体である東京都資源回収事業協同組合が TOKYO 2020 オリンピック・パラリンピック関連施設での資源回収業務委託を受け、当組合からも 5 社がオリンピックスタジアム及び選手村の資源回収業務に参加出来たことです。詳しくは本誌 8 面に記事を掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

令和 4 年は「壬寅 (みずのえとら)」、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年という思いが込められているそうです。本年が皆様にとって、組合にとって新たな始まり、成長の年になることを心より祈念申し上げます。

●ヴェーナス通信 81 号 目 次●

- P 1 …新年のご挨拶 理事長 吉浦 高志
- P 2 ・特別寄稿 ①家庭系廃棄物の実態調査数値に疑問 ②集団回収事業の苦労話
- P 4 ・令和三年度団体情報連絡会、再生資源取扱組合懇談会に参加、組合まつり in TOKYO
- P 5 ・リサイクル掲示板『感染の恐れのあるものを混ぜないで下さい』
- P 7 ・古紙リサイクルセミナー
- P 8 ・各市でリサイクルイベント開催、オリンピック・パラリンピック競技大会での古紙回収
- P 9 ・回収車両運転者安全講習会をリアルとライブ配信で実施
- P 10 ・行事と行動、編集後記

リサイクル適性 (A)

特別寄稿

①家庭系廃棄物の実態調査数値に疑問

②集団回収事業の苦労話

東多摩再資源化事業協同組合

顧問 紺野 武郎

①家庭系廃棄物の

実態調査数値に疑問

各自治体は、毎年ごみの収集量や組成分析などを発表しているが、その数値に少々気になる点がある。

◎先ず、「ごみの総量値」だが、可燃・不燃・粗大・有害などのごみに加えて、資源物も資源ごみとして加算している。以前にも指摘したが、分別し再生資源として生きたものをどうしてごみとして取り扱われるのだろうか。市民は、細かく分別してごみ減量

運動に協力していると思っ
ている。市民一人一日当たりのごみ量を比較した調査も発表されるが、資源物もごみとして加えているから、分別努力は数値に反映しにくい。リサイクル率を見て貰えばわかるというが、市町村のごみ減量の成果は市民一人当たりのごみ総量で比較される。

持去り業者による古紙盗難が横行した時、「ごみ総量が減るから構わない」とある行政の担当者に言われたことがある。市民の努力も資源化して生まれる財産も無視されたように感じた。

再生資源物は、再び原材料などとして生まれ変わる。最終のごみとして処理されるまでごみ総量からは非除外してほしい。

◎次に、「ごみの組成分析数値」で、何度か現場に立ち会って作業を手伝って疑問に感じた。

組成分析するごみの検体採取は、焼却場のピットの中に堆積している可燃ごみをリフトで摘み、コンクリートの敷地に撒いて人海戦術で六種類程に分類する。始めは分別した品目を湿ったまま合計して分母にし、各品目の重量比を%で表示する。次に各品目を十分に乾燥させてその合計を分母にして重量比を出す。

前者を湿ベース、後者を乾ベースとして公表している。

可燃ごみはパッカー車で収集し計量してピットに放出するがその時点で大量の水分が含まれている。

全国の可燃ごみの総量はこの水分を含んだ数値で計上されている。

ところが組成分析では、ピット内に数日置かれた物を取り出し、敷地に拡げて細分するため水分は殆ど流れ蒸発する。湿ベースでもかなり乾燥した状態になってくる。

収集直後の可燃ごみと組成調査後の検体の重量では、湿ベースでも水分が四〇%前後減少してしまう。

全国的に見ても多摩地区の資源リサイクル率は高いが、可燃ごみに紙類の混入する率が組成調査では三七%以上と出てくる。

もし分母に収集時含まれていた水分を加えればその数値が半減する。

二〇二〇年度の可燃ごみ収集量は、多摩地区で七三万トン、二三区で一七一万トン合計約二四四万トンとなっている。

その三七%に当たる九〇万トンの紙類がごみ化しているとして、自治体は更なる分別の徹底が必要と市民に呼び掛けている。

ところが同年度、(公財)古紙再生促進センターが発表した古紙回収率が八四・四%で未回収古紙の量

は、三三五万トン。その内トイレットペーパーやティッシュなどの衛生紙

が一八〇万トン、さらに再生可能な禁忌品紙五〇万トンほどを差し引けば、回収可能な紙類は一〇

〇万トン程度しか無いことになる。東京だけで九〇万トンはあり得ない数値だと言える。

分母に水分を加算しなかったことと、衛生紙や小動物の汚物処理

紙・厨芥の水切りなど再生不可能な紙もカウントしたための誤差ではと考えられる。コロナ禍の今、

使い捨てのタオルペーパーも急増している。(昨年消費量三三万トン)

再生資源を如何に有効に循環させるか、そのための正しい基礎データは大切である。

無理なりサイクルは、環境負荷を増やす恐れもある。

◎「プラスチック問題」はさらに深刻だ。マイバック普及促進に、レジ袋の有料化が義務付けられ、その成果を評価されているが、そのマイバックで、大量のプラスチック類が毎日家庭に持ち込まれる。

プラスチックの代替品としての紙容器なども難再資源化品で可燃ごみとなるものが多い。

プラスチック類は、容り法で各自自治体が分別収集・選別・圧縮梱包・保管まで処理しているが、その経

費は税金で、プラ容器類の製造販売原価の二〇倍以上になるものが多いと言われている。

本年四月より「プラスチック資源循環促進法」が施行され、さらにプラ製品回収の品目を増やすと言うが、回収作業もその費用も自治体に丸投げされるようだ。

プラ製品に替わる安価で強く強い材料が皆無となれば、製造販売事業者から消費者まで責任を持った資源循環の確立が急務である。

誰もが痛みを感じる方法として、リサイクル経費の製品価格への転嫁も必要なのではないだろうか。国が法制化し自治体が推進するリサイクルが、動脈産業の新たなごみ捨て場となり、プラ製品の発生促進にならないよう望みたい。

我々業界も、SDGsの目標に向かって、次世代の再生資源リサイクル事業に大胆な提言や企画が必要ではと痛感する。

② 集団回収事業の苦労話

を聞いてください

家庭から排出する再生資源は、古紙・古布類・金属屑・びん缶類・廃プラ類・廃家電などあり、その殆どが各種リサイクル法によって、自治体等の経費負担で回収され、リサイクルを推進しています。

資源物の売上のみで回収コストを賄えらるるものは少なくなりましただ組は、主に各市からの委託により古紙・古布類の行政回収と集団回収事業をしています。

さらに、商店・工場の事業所や官公庁学校などの資源物回収も担っておりです。

その中でも**集団回収**は、市民団体と地元回収業者が契約して、主に古紙や古布類など有価で売却可能な物（専ら物）を回収し、自治体は市民団体に報奨金等で支援して来ました。

回収業者も、資源物売却価格での回収が困難な物には市から助成金を頂いております。

資源物の回収経費は、その種類や場所、規模と回収方法などで大幅に異なりますが、通常小型トラックに法定内重量を一人で回収したとしてkg当たり一〇〜二〇円必要になっていきます。

特に行政回収は、決められた曜日と時間内の広範囲な回収となり人・車・経費も倍化されます。

近年、**古紙の売却価格は暴落し**、古紙類の問屋買入価格でkg当たり二〜七円（日経相場）、古布は〇〜一円で推移しており、**回収コストをはるかに下回っているのです。**

各市が**集団回収事業の業者に支援**

している助成金も、〇〜三円程に据え置かれたままです。

さらに、**団体の世帯数が年々小規模化**してきて、元来一ヶ月に一度の回収だった**回収頻度**も、月二回いや毎週戸別に回収してほしいとかトイレットロールの配布を頼まれることもあります。

例えば、トラック一台運転手一人で回収すると、**往復時間に加えて回収・選別加工などで二〜三時間**かかります。月一トン集まる団体でも月二回収すれば**五〇〇kg**です。仮に**五〇〇kgが全品五円で売**

れたとして二五〇〇円、車両一台運転手一人で時給約**一〇〇〇円**也。このように、**作業員の法定最低賃金にも満たない五〇〇kg以下の小規模回収が多くなりました。**

雨で回収中止となり待機した人と車が無駄になることも濟々です。

元来集団回収は、団体の皆さんが決められた場所に集荷し短時間で大量の資源を回収できるから成り立つ方法であり、昭和五〇年頃からは、ちり紙交換回収に変わって全国に広まりました。

各自自治体は**地域コミュニケーション**と**ごみ減量運動推進**に対して報奨金を出してきました。

回収業者も、短時間にまとまって回収でき古紙の売上だけで十分に

採算が取れていました。

しかし**行政回収が頻繁にしかも戸別回収**するようになり、市民団体の構成も年々高齢化で小規模化して来たため、行政回収に合わせた**集団回収を要望**されるようになって来ました。

回収事業者としては、各市から古紙類等の行政回収委託事業を受けしており、長年共に苦労してきた団体の皆様の要望ももつともで、**ボランティア回収を続けているのが現状**です。

加えて、**古紙類発生量の変化**も回収業者を悩ませています。

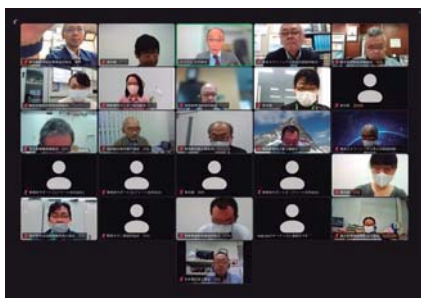
IT革命による情報用紙の減少や新聞購読部数の減少など、**パーレス社会の影響**で、**集団回収の主要品目である新聞や雑誌古紙が減少**し、逆に**宅配便の増加**で段ボールや雑がみ類・古布類など**嵩張る物が急増**し、回収や選別の作業など**手間が倍加**して来ました。

何卒、回収団体の皆様には、分別の徹底や梱包をしっかりと頂き、出来るだけ協力世帯を増やすなど一回当たりの回収量増加にご協力を頂ければ幸いです。

また、**同一地域内での小規模団体の集団回収は、出来るだけ同日時に同一車両に混載する方法を認め**て頂きますようお願い致します。

令和三年度団体情報連絡会

東京都産業労働局経営支援課が主催で毎年開催されている同連絡会に、東資協理事として参加した。今年は、『ウイズコロナにおけるIT技術の活用について』をテーマに、経営コンサルタンの竹内幸次氏（株式会社スプラム代表取締役、中小企業診断士）による講演が行われた。コロナ禍における中小企業経営状況や日本のデジタル社会の現状についての報告に始まったのだが、世界的に日本が競争力、投資額とも遅れを取っていることを思い知らされた。アンケートに基づいてデジタル化に向けての課題が示されたが、中でも日本のIT化、IoTの導入が人件費をはじめとする経費削減に向かいがちであることを私自身反省と共に見直す必要を感じた。



団体情報連絡会の様子（私と講師以外、お名前、お顔の一部ぼかしを入れています。）

再生資源取扱組合懇談会に参加

その後、Web会議やリモートワークにおける通信環境（特に通信速度について、Webで確認）やWebカメラ、イヤホンマイクといった基本的な備品の準備の必要性に始まり、テレワークの進め方や中小企業に有効な最新ITツールの紹介などのお話があった。キーワードに関するトレンドサーチ、挨拶などの文章を視覚化するテキストマイニング、スピーチを正確に文章化するサイト等、今すぐに使いたくなるようなものばかりを教えて頂いた。（TKO）

再生資源取扱組合懇談会に参加
去る十一月一七日（水）、NATULUCK銀座にて開催された表記の懇談会に、吉浦理事長、紺野専務理事と共に、東資協の業務委員長として参加した。この懇談会は、東京都中小企業団体中央会が主催したもので、都内の清掃・リサイクル関連の組合の代表者一四組合一七名が一堂に会して初めて開催された。

懇談会のテーマは、『再生資源組合の現状と課題』コロナ下における事業運営』ということで、まず始めに東京都環境局資源循環推進部専門課長古澤康夫氏から、『ゼロエミッション東京を目指す』東京都の環境施策について』講演があ

った。二〇五〇年にCO2排出実質ゼロに貢献する『ゼロエミッション東京』に関する説明、令和四年四月一日に施行予定の『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律』を受け、廃プラのリサイクルに関した取り組みを始め、東京都のビジネスモデル支援事業やサーキュラーエコノミーのお話の最後に、SDGsの目標十二…持続可能な消費及び生産をリードするのは先進国に住む私たちの責任であるとしてしめくくった。

次に、参加した組合の意見交換の場となった。各組合からは、組合の紹介やコロナ下における事業運営について発表されたが、時間があまりなく各団体今回は自己紹介的な形で意見交換会は終了した。次回は、事前にもう少しネタ提供をして頂き、密な意見交換が出来ることを期待したい。（福田）

組合まつりinTOKYO

組合まつりinTOKYO
去る十二月一〜三日、東京国際フォーラムにて、毎年恒例の組合まつりがリアルとオンラインの併用にて開催されました。東京都中小企業団体中央会に加盟している各種組合や、全国各地の当地自慢の物産を販売する団体など、一二三団体ブース出展していた他、ステージでは、講演会・パネルデ



オンライン（上）とリアル開催（左）



イスカッションなどが開催され、オンライン配信されました。私は、三日（金）にリアルで参加してきましたが、久しぶりのブースイベントということで、気分はかなり上々でした。各種ブースを覗きながら順路を回っていると、

日本資源再生事業振興協同組合という日資連（日本再生資源事業協同組合連合会）とそっくりな名前前の組合を発見して名刺交換したり、中央会青年部ブースに顔を出したり、各組合の取り組みを学びながら楽しく巡回しました。全国物産のブースでは、試食やお土産の購入も出来ました。

オンラインページでは、各組合の情報が見れる他、Web上で情報交換も出来ます。でも、リアル参加がおすすめなので、師走の忙しい時期の平日ですが、来年は是非会場へ。（TKO）

リサイクル掲示板

感染の恐れのあるものは適切に処理しましょう

コロナ禍だからダメ、というわけではなく、ごみ・資源には混ぜてはいけない、出し方に気を付けて頂きたい『感染の恐れのある廃棄物』があります。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が始まって以降、本誌でも度々取り上げたことがございますが、実際の現場でよくある事例から何点か取り上げて、改めて市民の皆様にご注意頂きたいことをご知らせしたいと思えます。

中には、注射針のようにそもそも家庭ごみ収集には出してはいけないものや、仮に未使用でもリサイクル出来ないものもあります。繰り返しになり恐縮ですが、適切な分別と排出方法へのご協力を宜しくお願い致します。

①注射器、注射針

(感染性の医療廃棄物です。未使用、使用済みに関わらず、一般の家庭ごみには出せません。かかりつけの医療機関にご相談下さい。)

インスリン注射などに使用された注射器は、特に不燃ごみ、缶やなべなどの金属類、電池や蛍光灯などの有害物に混入してくることがあります。収集作業員やリサイクルセンターの選別作業員が作業中に手などに刺さってしまう事故も報告されています。万が一、注射器を使用した方が重大な感染症にかかっていた場合、受傷した作業員が感染してしまう恐れがあり、非常に危険です。このため、注射器は、家庭ごみ収集では取り扱っておりません。かかりつけの医療機関(病院・薬局など)を通じて適切に処分して下さい。



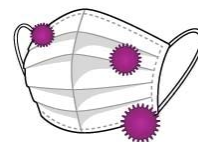
ペン型の注射器

普通の注射器

②マスク

(未使用、使用済みに関わらず、古紙や古布には混ぜないで下さい。可燃ごみとして出す際には、小さな袋に入れ2重にして出して下さい。)

コロナ禍で、マスクの排出が非常に増えています。マスクには、布製、ウレタン製、不織布製など様々な種類があります。まず布製ですが、古布としてリサイクルは出来ません。ウレタン製のものも、もちろん不可です。そしてよく勘違いされるのが、不織布製のもの。紙のように見えるせいでしょいか、古紙の中に多数混入しており、古紙問屋では選別を強化しております。使用済みのものも多く、現場では常にリスクに晒されています。そもそも、これは、布でも紙でもありません。古紙にも古布にも混ぜないようにくれぐれもお願いいたします。



では、マスクはどのようにして処分したらいいのでしょうか?可燃ごみとして出す場合でも、袋からはみ出してしまった場合に収集作業員に触れてしまう恐れがあります。使用済みマスクは、直接ごみ袋に入れずに小さな袋に入れて縛ってから、指定ごみ袋に入れて出すようにお願いします。

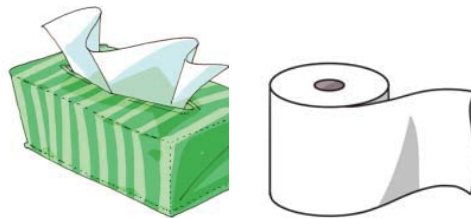


裏面に続く

リサイクル掲示板

- ③ティッシュペーパー、トイレットペーパー、ペーパータオルなど（紙は紙ですが、使用、未使用に関わらず古紙には混ぜないで、可燃ごみとして出して下さい。）

多くの市民の皆様は、そんなこと言われるまでもないだろうと思われたでしょうが、残念ながら古紙の中に使用済みのティッシュペーパーやペーパータオルが混入しているケースは多く見られます。使用済みの場合は感染症のリスクもあります。こうした紙類は、使用未使用に関わらず可燃ごみとして排出して下さい。（※未使用でも、ティッシュペーパーやペーパータオルは水に溶けづらいため、トイレットペーパーは特殊加工を施しているためにリサイクルが出来ません。）



なお、ティッシュペーパーの空箱（取り口のビニールは剥がす）やロールの芯は雑がみとしてリサイクルが可能です。貴重な紙資源を守るために雑がみのリサイクルにご協力下さい。

- ④ウェットティッシュ
（水に溶けないため、古紙にはなりません。可燃ごみで出して下さい。）

除菌をする習慣が定着し、ウェットティッシュを会社や家庭に常備したり、持ち歩いたりされる方が増えました。ウェットティッシュはその名の通りウェットな状態で使用するものですから、紙ではなく水に溶けない素材が使われています。古紙にはなりませんので、可燃ごみとして出して下さい。



- ⑤紙おむつ
（汚物を取り除いて可燃ごみに出して下さい。未使用の場合でも、古紙にはなりません。）

紙おむつも古紙の中に混入することがあります。紙おむつには吸収性ポリマーなど紙ではない成分が含まれているため、未使用でも古紙としてはリサイクル出来ません。さらに、使用済みのものとなると、衛生上の問題があり、適切に処分する必要があります。

紙おむつは、便などの取り除ける汚物を取り除き、可燃ごみに出して下さい。多くの自治体で、おむつは指定の有料袋ではなくて透明か半透明のビニール袋に入れて可燃ごみの日に出せるようになっていきます。各自治体のごみ・資源の出し方ルールをご確認ください。



『自宅療養、自宅待機をされている新型コロナウイルスの感染者がいる場合』

新型コロナウイルス感染症に感染した方が自宅で療養する場合、感染者のごみからの感染拡大を防止するため、下記のルールを守ってごみ・資源の排出を行ってください。

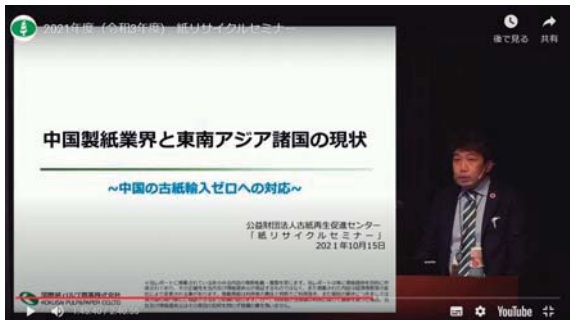
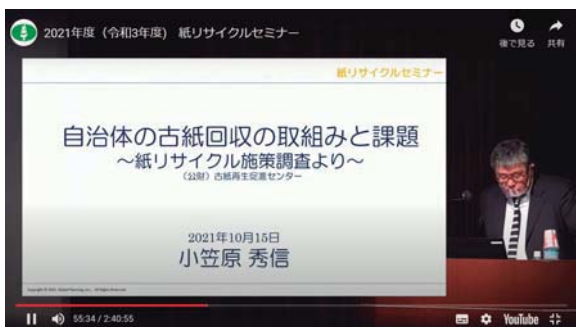
- ①可燃ごみの袋に入れる前に、必ずビニール（プラスチック）袋に入れ、封をしてから（二重袋）、可燃ごみの袋に入れ、口をしっかりと縛ってから排出して下さい。
- ②不燃ごみは、家庭内で保管し、陰性確認後1週間程度過ぎた後に排出して下さい。
- ③資源物など、物の表面についたウィルスの生存期間は3日程度と言われています。陰性が確認されてから、1週間程度が経過するまで、ご自宅にて保管して頂き、期間経過後に資源物として排出して下さい。
- ④各自治体、保健所の指導に従って排出をお願いします。

令和3年度紙リサイクルセミナー



挨拶をする古紙Cの長谷川代表理事

去る十月十五日(金)、千代田区の星稜会館にて、公財)古紙再生促進センター主催の表記のセミナーが開催された。昨年に引き続き、会場での参加は制限され、私もYouTubeによるライブ配信を視聴した。リアルとオンラインで合わせて約二〇〇名の参加があった。まず初めに主催者を代表し、古紙センターの長谷川一郎代表理事から挨拶があり、令和2年度の古紙回収率が八四・四%、古紙利用率が六七・五%と高い水準を維持していること、今後の利用率目標は六五%と据え置かれているが、これまで以上に利用率のために取り組んでいくと述べた。



挨拶の後、三つの講演が行われた。一人目は、日本製紙連合会SDGs委員会委員長の上野満男氏より、日本製紙連合会が会員十九社からなるワーキンググループでの調査研究の元に取り組んでいるSDGsの取り組みについて説明された。紙パルプ業界が現状貢献している八つのSDGs目標をより深化させていくことと、そのうち五つの目標に係る重要戦略として、カーボンニュートラルの実現、サーキュラーエコノミーへの貢献、グリーンリカバリーへの貢献、デジタル社会での紙の役割という四つの重要テーマを挙げた。二人目は、(有)グローバルプラン

ニング取締役 小笠原秀信氏より自治体による古紙回収に関する調査結果の講演で、古紙センターの半世紀にわたる統計から回収量や利用率、輸出入の推移、古紙回収率と利用率の推移の他、人口動態の推移、IT技術の進展や紙・板紙生産量の推移などグラフを用いて分析した。政令市や各地方別の回収方法や品目の傾向分析、中国の古紙輸入禁止や新型コロナウイルスの古紙回収への影響などのアンケート結果をまとめた。最後に今後の課題として、紙リサイクルの視点ではいかに雑がみを使いこなしているか、中国市場の受け皿とな

規制強化に動いており、将来的な動向を古紙業界全体の課題とすべきこと、経済社会の構造変化に伴う資源回収への影響に対しては根本的な対応が必要とした。三人目は、国際紙パルプ商事(株)グローバルビジネス統括本部製紙原料営業本部 本部長 中道徹氏から、中国の昨年末の古紙輸入制限に至る背景やその後の状況として中国国内での古紙回収量増加や原紙輸入の現状について解説された。その次に東南アジアの状況として、インド、ベトナムの製紙市場が急成長していること、特にベトナムの優位性について説明があった。今後の日本の古紙市況に影響を及ぼす要因として、世界的な段原紙、古紙パルプの製造ラインの拡大、域内需要増による欧州古紙の供給減、東南アジア各国でのロックダウンに伴う回収量減などにより日本の古紙の需要が高まるというプラス要因がある一方、海上運賃の高止まり、中国国内での古紙回収率向上、過剰なマシン増設によるダンピングなどのマイナス要因が指摘された。中長期的には、SDGsの観点からも、古紙は日本国内循環が望ましいとした。講演後、古紙センターの栗原副理事長の挨拶で閉会した。(TKO)

各市でリサイクルイベント開催

今年も、各市でリサイクルイベントが開催されました。新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、各市、オンラインのみの開催だったり、縮小してリアルで開催したりと判断は分かれていましたが、中止が多かった昨年に比べ、様々な形で開催されたことは、よかったですと思います。

東大和市環境市民の集い（五月六日）と東久留米市環境フェスティバル（六月八月）は、オンラインで開催され、当組合も紹介ページを掲載して頂きました。清瀬の環境・川まつりもオンライン開催を予定していますが、この記事を書いている段階ではまだサイト準備中とのことです。分り次第、組合ホームページでもご紹介させていただきます。

また、小平市では、二ヶ月おきに開催しているリサイクルきやらばんの他、九月二五日には、小平市リサイクルセンターにて小平環境デーを開催し、当組合では牛乳パックとトイレットペーパーの交換、小物雑貨類の無料回収、雑がみ袋や古紙の分別に関する資料の配布を行いました。

東村山市では、毎年開催してい



東村山市リサイクルフェア
当組合ブース前にて

るリサイクルフェアを今年は十二月十と十二日に中央公民館でパネル展示を中心に行いました。当組合では、古紙・古布の出し方に関する注意点、古紙のリサイクルの流れ、禁忌品に関する事、古着のリサイクルについてのパネル展示を行った他、各種資料の配布を行いました。コロナ対策として、参加者には入館時の検温、消毒の他、全員受付で名前や緊急連絡先の記入をお願いし、万が一クラスターが発生した場合に濃厚接触者と連絡が取れるよう対応して行われました。一部、お宝ハンターや中古家具の抽選販売、ガラス細工の制作イベントも行っていたため、そちらからの流れで三日間で四百名近いご来場者がありました。幸い、コロナ感染の報告もなく、無事に終了いたしました。（TKO）

東資協のTOKYO2020オリンピック・パラリンピック関連施設の資源回収業務に参加しました

令和三年七月二三日、一年延期、無観客開催と、過去に例を見ない状況の中で、TOKYO2020オリンピック・パラリンピック大会が開催されました。連日、アスリートたちの息をのむ競技が繰り広げられるその裏で、当組合員十社が加盟する東京都資源回収事業協同組合では、令和元年一二月二六日に締結した公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との業務委託契約に基づき、オリンピックスタジアム、選手村などの関連施設における資源回収業務を行いました。当組合からも組合員五社がこの業務に参加しました。

準備段階の六月四日から徐々に回収が始まり、直前の七月中旬からは、週二〜三回のペースで、オリンピックスタジアムと選手村の古紙（主に段ボール）、びん、缶の回収を行いました。

回収車両は、東資協が登録した『Recycle&TOKYO』のステッカー及び車両通行証であるVAPP Sを貼付し、パッカー車には空であることを確認して封印シールをし、入構予約票であるMDSカー



オリンピック関連施設資源回収業務出発前に組合前にて。

ド、回収場所や経路を記したセキュアロードパス、作業員は、アスリートたちも首から下げている個人認証票アクレディテーションカードを準備し、セキュリティチェックが厳重な関連施設内へ入構していきます。

関係者以外は立ち入ることのない場所での作業は、華やかな舞台を陰で支えているという責任感と充実感、達成感を感じることが出来ます。競技場の設営風景を垣間見ることが出来たり、世界各国のアスリートの方々とは違うこともあり、大会を間近で感じることも出来ました。

回収作業は、パラリンピックが閉会し、その後の撤収も含め九月末まで続きました。夜間、早朝の作業も多く大変でしたが、最後まで事故怪我無く業務を遂行するこ



段ボール回収の様子。市販している公式ユニフォームを纏い、裏方の一選手として作業中。

とが出来ました。貴重な機会を頂き、松本理事長始め東資協役員の皆様、そして何より、組織委員会との打ち合わせから配車、組合員との連絡調整まで奔走して頂いた東資協鰐淵副理事長に感謝申し上げます。ありがとうございます。ごさいました。

また、分別ナビゲーターという観客のごみ分別ボランティアにも三名登録していましたが、こちらは残念ながら無観客で中止になってしまいました。

緊急事態下、異例づくめのオンラインピック・パラリンピック大会でしたが、私たち自身感染リスクを抱えながらも、世界的なイベントが無事に開催出来る裏方を担えたことを誇りに感じています。この経験を胸に、今後も地域のリサイクル推進のため、邁進してまいります。

(TKO)

回収車両運転者安全講習会をリアルとライブ配信で開催



吉浦理事長の挨拶

去る十一月二十六日(金)、東村山市民センター第一(三会議室)でのリアル開催及び、組合初の試みとなるYouTubeによるライブ配信にて、回収作業員安全講習会が開催されました。会場には市民が利用できるLAN回線やフリーWiFiがなく、スマートホンのテザリング機能を利用したため、通信環境に不安はありましたが、事前のテストを行い何とかこれでやってみようということになり、実施することになりました。また、会場とライブ配信という形をとるため、受講状況の確認が難しいので、穴埋め式の確認シートを作成し、答えと感想を書いてもらうことで参加確認としました。

福田業務委員長がリードする東

多摩再資協安全・行動宣言を唱和した後、吉浦理事長から運転者の皆様に対して日頃の回収業務への感謝のご挨拶がありました。その後、御来賓としてご臨席頂いた東村山市環境資源循環部ごみ減量推進課星野課長様より、コロナ禍における資源回収業務に対する労いと、日ごろの安全作業に対する激励のお言葉を頂戴しました。また、東久留米市環境部ごみ対策課後藤課長様、西東京市みどり環境部ごみ減量推進課菱川課長様より、事前にお預かりしたメッセージを司会が代読させて頂きました。

紺野専務理事より安全講習の趣旨説明があった後、講師の東久留米自動車教習所副管理者吉本浩士様より『交通事故の怖さと基本の大切さ』をテーマに安全講習を行って頂きました。免許を取得して二〇年以上経つ中で、教習所の、しかも母校の教官のお話を聞くというのは新鮮な気持ちでした。

私は、運転に慣れている、自信がある、プライドを持って運転をしている、免許の更新をすればするほど、基本的なルールやマナーを耳にタコができるくらい聞いてきた、そういう話を巷でよく聞くことがあります。自分が安全運転、ルールを順守していても、もらい



LIVE配信の画面より。東多摩チャンネルで、組合員限定配信しました。

事故や、事故に巻き込まれた時、気が動転して冷静な正しい判断ができないことがあります。そういった点に着眼点を置き講習をして頂きました。

最後に小畑副理事長の講評及び閉会の辞をもって安全講習会は閉会しました。

心配していたライブ配信の方も、全ての運転手の参加が確認出来、また、一部通信環境の関係で聞き取りづらい場面もあったそうですが、講習会の内容についてはしっかりと理解でき、初心に立ち返って安全運転に心がけたいという声も聞くことが出来ました。(MK)

行事・行動

- 【六月】
- 四日：小平RC責任者会議(Web)
 八日：東資協理事会(Web)
 九日：古紙持去意見交換会(Web)
 十一日：定例理事会(Web会議)
 十四日：小平RC関連JV会議(Web)
 十六日：青年部定例会部会(Web)
 十九日：日資連総会(Web)
 二十一日：業務・集団回収委員会(Web)
 二十四日：共同受注検査(東久留米市)
 二十五日：共同受注検査(東久留米市)
 ・小平市廃棄物減量審
 二六日：東村山市集団回収団体連絡会
 三〇日：東久留米市廃棄物減量審
 ・西東京市廃棄物減量審
- 【七月】
- 一日：清瀬市廃棄物減量審
 二日：共同受注検査(東久留米市)
 五日：ISO審査(六日まで)
 ・小平RC責任者会議(Web)
 六日：集団回収委員会(Web)
 七日：東村山市RF実行委員会
 ・小平RC関連JV会議(Web)
 八日：東資協理事会(Web)
 九日：定例理事会(Web会議)
 ・財務委員会
 十七日：日資連理事会(Web)
 十九日：オリピック・パリ
 ・オリピック関連資源回収業務
 十九日：業務・集団回収委員会(Web)
- 【八月】
- 二九日：東久留米市廃棄物減量審
 五日：小平RC責任者会議(Web)
 十日：東資協理事会(Web)
 十一日：小平RC関連JV会議(Web)
 十九日：定例理事会(Web会議)
 ・東村山市学校機密回収
 ・業務・集団回収委員会(Web)
 二十日：西東京市廃棄物減量審
 二四日：東久留米市廃棄物減量審
 二八日：日資連理事会(Web)
- 【九月】
- 七日：小平市リサイクルきゃらばん
 ・小平RC責任者会議(Web)
 八日：東村山市RF実行委員会
 ・東資協理事会(Web)
 十日：定例理事会(Web会議)
 十五日：小平RC関連JV会議(Web)
 ・資源回収責任者意見交換会(Web)
 ・東リ協理事会(Web)
 十七日：青年部定例会部会(Web)
 十八日：日資連理事会(Web)
 二一日：小平市廃棄物減量審
 ・業務・集団回収委員会(Web)
 二五五：こいだいら環境デー2021
 二七七日：古紙持去問題意見交換会(Web)
 二九日：東村山市業者連絡会(書面)
- 【十月】
- 四日：清瀬市廃棄物減量審
 五日：小平RC責任者会議(Web)
 八日：東久留米市廃棄物減量審
 ・東資協理事会(Web)
 十二日：財務委員会
 定例理事会(Web会議)
 十四日：小平RC関連JV会議(Web)
 十九日：業務・集団回収委員会(Web)
 二十日：青年部定例会部会(Web)
 二五五日：西東京市廃棄物減量審
- 【十一月】
- 四日：小平RC責任者会議(Web)
 八日：東資協理事会(Web)
 九日：東京都団体情報連絡会(Web)
 十日：東村山市RF実行委員会
 十二日：小平RC関連JV会議(Web)
 ・青年部定例会部会(Web)
 定例理事会(Web会議)
 十六日：東リ協理事会(Web)
 十七日：再生資源取扱組合懇談会
 二〇日：日資連理事会(Web)
 二二日：清瀬市廃棄物減量審
 ・業務・集団回収委員会(Web)
 二四日：東村山市業者連絡会(書面)
 二六日：小平市リサイクルきゃらばん
 ・資源回収作業員安全講習
 会(会場及びライブ配信)
 二九日：古紙持去問題意見交換会(Web)
- 【十二月】
- 七日：小平RC責任者会議(Web)
 八日：東資協理事会(Web)
 十、十二日：東村山市リサイクルフェア
 十三日：財務委員会
 ・定例理事会(Web会議)
 十五日：東村山市RF実行委員会
 十七日：小平RC関連JV会議(Web)
 ・青年部定例会部会(Web)
 二二日：業務・集団回収委員会(Web)
 三十日：仕事納め

編集後記

読者の皆様お久しぶりです。コロナ禍で、配布できるイベントが少ないことなどから、今号は、九か月ぶりの発刊となりました。イベントがないのは記事のネタにも困る両刃の剣なのです(汗) さて、上記の◆行事・行動◆をご覧頂くと分かる通り、ほとんどの会合が(Web開催)となっております。十二月に理事会だけはリアルで開催をいたしました。久々にリアルな会議の進行をさせて頂きましたが、久しぶりすぎて、あれ?これで良かったんだっけ?という場面が何度かありました。リモート会議は、それはそれで私語も少なくスムーズな会議進行が出来、いいところがありますが、やっぱり顔を合わせてお話が出来るのはいいなあと感じました。オミクロン株は心配ですが、今年はお Coronaも収まって少しずつでも普段通りの生活に戻っていきけるように祈念します。(TKO)